

2026年度 世田谷トラストまちづくり活動助成事業

審査講評

まちづくり活動部門

【1回目応募グループ】

< 2-1 下北沢まなぶらり実行委員会 >

下北沢は近年、多くの広がりと変化を見せている地域だと感じています。この街で多様な人、場所、活動、価値観をおたがいが気楽に理解する機会の提供の場の確立がさらに広がり、街に根差した学びのモデルケースになればステキです。また、「下北沢まなぶらり」の軸となる「あるく・あそぶ・まなぶ」の中に高齢者、障害者を巻き込めるような福祉とのつながりの視点も入るとより多くの人に思いが届くと感じます。

< 2-2 世田谷ナラ実行委員会 >

仮装パレードやミュージカル、ワークショップなど、多様な表現を通じて地域に新しい出会いや楽しさを生み出そうとする企画力と実行力に魅力を感じました。一方で、一日限りのイベント開催だけでは、本当の意味での地域のつながりや関係性を育むことは簡単ではありません。大切なのは「何を開催するか」だけではなく、その準備の過程で誰と出会い、誰を巻き込み、どのような関係性が地域に残っていくのかだと思います。表現者が持つ人の心を動かす力を活かしながら、演じる人と観る人、提供する人と参加する人という関係を越えて、地域の人たちと共につくるお祭りへと育っていくことを期待しています。

< 2-3 世田谷保育親の会 >

就労家庭の増加、保育の無償化など保育園をめぐる環境の変化が大きい時期の今だからこそ、保育園と保護者の関係づくりは重要だと考えます。子どもを真ん中に保護者と保育園がつながり、支え合う「土壌づくり」に期待しています。

< 2-4 FREE BIRD >

明大前の活性化を目的としたバスキングライブの取り組み、試行錯誤を継続しながら、地域に馴染んで行くことを期待しています。また、明大前の活性化という大きな目標に向かってこの取り組みを契機に、商店街の多くのお店や地域の人々を巻き込んだ広がりのあるその先の活動へつながっていくことを期待しています。

< 2 - 5 よなきば >

夜間における子育ての孤立を軽減するという明確な使命、またメンバーが保育の専門家である点も大変心強く感じました。すでに、行政や警察、地域とも連携しながら、活動の情報伝達と安全性確保の両立に努めておられ、活動を持続させる上での課題認識にも共感しました。今後、認知度が上がり、一人でも多くの保護者の「心のおまもり」として広がることを期待しています。

< 2 - 6 Hello Neighbor! >

多彩なメンバーから構成されるチームワークに期待しています。食は誰でも楽しめる活動ですので、「まちの輪」の広がりにも期待しています。一方で、応募用紙にも記載がある「一時的なイベントで終わらせず」という点も大事かと思います。1年目なので色々取り組んでみながら、今後の活動の方向性についても検討いただけたらと思います。

< 2 - 7 奥沢時間 >

プログラムの内容はもとより、ご自宅を活用し、多世代の地域住民が集い、時間を共にする活動に大きな価値を感じました。訪れた方々にとって心地よい居場所となり、その輪が地域へ広がっていくことを期待しています。

< 2 - 8 ぱすれる 外国につながる子ども・ことば研究会 >

日本に不慣れな在留外国人が子どもの就学等に際し、苦勞されている状況を目の当たりにし、何とかすべく活動を立ち上げた志、行動力に敬意を表します。今後、国際協力の NPO 等とも連携し、ネットワークの構築につながることを期待します。このような活動が、優しさのある、住みやすい社会をつくるのだと思います。

< 2 - 9 玉川小学校おやじの会 >

本助成金が種火となり、人や知恵、資源が集まりながら、地域のつながりが広がっていくことを期待しています。冬の校庭で花火やイルミネーションを囲み、多くの人が集う温かなイベントとなることを願っています。

< 2-10 成城ネイチャーラボ >

世田谷区の自然資源を生かし、子どもたちが自然のつながりや循環を体験的・探究的に学ぶ企画として評価しました。小規模な実践を積み重ねながら段階的な発展を目指すとともに、体験による学びや行動変容の効果を検証し、地域に根差した環境教育のモデルとなることを期待します。

< 2-11 烏山のまちづくりをみんなで考える会 >

学びを通じて地域のまちづくりを考えていこうとする姿勢に敬意を表します。また、学びを深めながら多様な方々との対話の場を設け、そのような機会を積極的に生み出そうとされている点にも大きな意義を感じました。一方で当日だけでなく、当日来られない方に関心を持ってもらうか、知ってもらうかも大事だと思います。講演会や対話の場の記録をとって、当日来られなかった人にも周知してはいかがでしょうか。

< 2-12 本を売らない本屋 >

「今更地域の活動に参加するなんて」という人を引っ張り出すために編み出されたという、同じ本に読んだ人のメッセージが貼られて行き来する仕組みがユニークと思いました。本を手取るうちに、いつの間にか、地域の一員になっていく。今後予定されている書棚の制作においては、無理のない範囲で DIY の要素を取り入れて参加者を募ってみても良いかもしれません。これからも、この本屋さんが、地域のゆるやかな連帯感、安心感の醸成に寄与することを期待します。

< 2-13 NATURE THEATER PROJECT >

何らかの理由によって失われてしまった建物や樹木は、しばしば「無くなってから、その存在の大きさに気づくもの」として私たちの前に立ち現れます。しかし本来、それらは失われた後にのみ語られるべきものではなく、日常の風景のなかで、すでに地域の記憶や感情、時間の蓄積を支えていた存在であったはずです。

NATURE THEATER PROJECT の意義は、失われてから価値を回収するのではなく、まだそこにある風景や樹木、建物の物語を、日常的な状況のなかで捉え直そうとしている。そのまなざしは、地域に眠っている記憶を可視化し、今後も人々が自分たちの環境との関係を再発見する契機を生み出していくことを期待しています。

< 2-14 早稲田大学渡邊大志研究室 世田谷まちづくり係 >

若者たちが街に入り込み、自らのヴィジョンを形にしていくことは、地域に新しい視点や活力をもたらす大きな可能性があると感じました。

一方で、研究室としての申請であるため、プロジェクトの主体が誰にあるのかがやや見えにくい部分もありました。今後は、若者たち自身がより明確なリーダーシップを持ち、地域に深く関わりながら、住民とともに実践を進めていくことを期待しています。

< 2-15 SHIMOKITA COLLEGE Members >

「よそ者」「若者」がまちを変えていく、と言われます。アーカイブを作る活動を通じ、アーカイブとその展示にとどまらず、「世代間の交流」「コミュニティの再接続」をどのように実現していこうとしているのか、注目しています。今年度は皆さんが起点となったワークショップなどさまざまな仕掛けを展開されますが、次年度以降、元々地域にいた人をどのように巻き込み、皆さんと混じり合ってどのような下北沢を目指し活動していくのかにも期待しています。

< 2-16 特定非営利活動法人 ハンディキャブを走らせる会 >

長年にわたり活動が続けてこられた中で、今年度は少し俯瞰的な視点から調査を進めようとされている点が、とても素晴らしいと感じました。今回の調査結果については、ぜひ何らかの形で公表していただけると、その知見が広く共有され、社会的な意義もより高まるのではないかと思います。

< 2-17 桜上水子育てグループさくらっこ >

子育て当事者を中心とした温度ある居場所やつながり作りを、まちづくり活動助成事業で知り合った他団体と協力しながら、丁寧に継続していく考えに共感を覚えます。

一緒に運営してくれる仲間やボランティアなどいくつか課題やテーマはあるようですが、まずは運営メンバーの皆さんが楽しく無理なく活動を継続していくことが、大切だと思います。

< 2-18 Team つるまき Green >

小学校の象徴であった桜の木の伐採をきっかけとして子どもたちが自然環境の大切さに改めて気づき、それを地域と自然をつなぐ拠点作りに広げて、「小さなまちづくり」のモデルを目指していく事は素晴らしいです。学校との継続的な連携の難しさや活動を広げていく上で本来の目的の確認や優先順位が不明確になる事も意識して目的意識をはっきり持って持続性のある取り組みを進めていただきたいと思います。

< 2-19 雨庭ネット世田谷 >

年々、集中豪雨により雨水が一気に下水道や河川に流れ込む浸水被害は全国のみならず世田谷区内でも大きな問題となっています。市民みずからの取り組みとして二年目は雨庭を広める活動をさらに進めて雨庭作り及び維持管理等の具体的な計画を作成、実施できる事はとても大事です。トラまち自主事業「雨庭の取り組み」との情報共有、協力、棲み分けなどができるとう世田谷での雨庭モデルとしてさらに確かな取り組みになっていくと期待しています。

< 2-20 特定非営利活動法人 東京コットンビレッジ >

「綿」を切り口に、ものづくりや環境、地域とのつながりを体験的に学ぶ企画として評価しました。ワークショップを通じて子どもたちの興味や探究心を育むとともに、未成年・若年層の自己肯定感を育み、地域とのつながりを深めながら、世田谷区における継続的な環境学習・地域学習の取組として発展することを期待します。